

## テーマ「外国人と共に暮らす」 参加者 17人

亀山にこれだけ外国人が多いにもかかわらず無関心が多い。  
顔で判断するだけ。やはり言葉の問題ではないか。出会いの場が少ない  
意思疎通ができないからつい構えてしまう。

自治会の組に入っていないし、すぐに転居してしまう。行政の取り組みが問題。  
警戒心。やはり言葉の問題。自分たちの排他性もある。挨拶を返してくれない。  
地震等の災害時に備えネットワークを早くしないと大変なことになる。  
彼らの多くは派遣会社にがんじがらめ。住むところまで規制されている。  
外国人から：日本人も人により様々。なじみにくい人もいる。  
隣に住んだとき組に入る制度はプライバシーがないと思う  
ブラジルに住むブラジル人とまるで違う。出稼ぎ第一が多い



コミュニケーションのきっかけは何から始めるのがいいか。  
付き合い方には国際交流型と地域の住民としての対応（多文化共生）  
の2通りがある。

国際交流型は取り組みやすいが同じ町に住んでいるからをベースにしないと成り立たない。

KIFAでは外国人との交流イベント（話しあい・ゲーム）料理教室。英語スペイン語講座。  
日本語教室は最初は100人でスタートしたが最近是中国系の研修生が多く別の問題がある。  
海外体験では疎外感を感じなかった。こんなテーマがあること自体日本の異常である。  
日本人は鎖国的である。挨拶をかわすことはキーワードである。  
言葉ができてコミュニケーションは難しい。笑顔が大切。

外国人：日本人の大人は挨拶をほとんど言わない。挨拶しても返ってこないから外国人が意気  
込みを無くす。挨拶運動は強制しても大人が守らないから続かない。日本では外国での挨拶と  
は目的や意味が違うのでは。大阪の「まいど」はハローに近い。> あいまい言葉をおしえても  
通じないのでは。

いつでもどこでも誰にでも使える軽い挨拶として「にーほん」（日本）を提案したい。ハロー  
やハウアーユー、ナマステ、ジャンボにあたる。地域から発信したらおもしろそう。  
日本人からまず挨拶しよう。返ってこなくてもいいじゃないか。言葉は壁だけど心の壁がある。  
外国人は好奇心は強い。日本の生活に溶け込むちょっとした配慮を。相手から答えを求めない。

免許の取得で差別があった> 行政上の差別は無いと思うが・・・。気付かないこともある。  
国際交流は楽しいイメージしか見えない。抱えている問題も解決する意識がどこまであるのか。  
オーバーステイ退去問題。どこまで意識を高められるか。

日本人は概して無視はするけど意地悪はしない。> 差別は地域や学校にあるはずだが目をつぶ  
っていて知らないだけ。助けてほしいと言うところが無い。学校では無視が最大のいじめ。  
暑くなると騒音で近所が迷惑、問題。> 楽しいうらやましいという人もいる。  
企業が最大のがん。派遣を大手が採用。外国人は道具扱い。事件が起こると外国人を悪くいう  
意識を植え付ける風潮がある。かって出稼ぎイメージで差別していたが一緒に祭りをしてから  
偏見が無くなった。異民族である以前に人間として付き合いたい。忍耐と根気が要るが。